

13. 総括—歴史学と「日本史探究」

2026. 1.16. 大橋 幸泰

はじめに

本日は、「日本史探究」をめぐる議論の時間／ここまでの講義をふまえて、現代・未来について議論しよう
*歴史学は、過去の人々の営みを参照して、現代の諸問題を考えようとする学問

1. 通史をどのようなものとするか

かつて通史といえば、発展段階論的に考えた

→しかし、1970-80 代、マルクス主義の揺らぎ、社会史の登場／歴史は必ずしも時間軸にそって発展するわけではないことが意識される

→適切な通史認識とは、どのようなものか？

2. 治者と被治者

治者(権力)と被治者(民衆)の志向性

治者／分断を志向(多様性を否定) ←→ 被治者／生活が脅かされない限り共存を志向(多様性を承認)

*ただし、同一人物のなかに治者と被治者という属性が存在

属性論／一人の人物、一つの集団は、単一の属性で完結しないことを意識して歴史を見る方法

*治者・被治者も属性の一つ／本来、属性は対等な関係 ←→ 身分は尊卑上下の意識をとまなう属性

→身分は前近代だけに存在したのではない／現代にも尊卑上下の意識をとまなう身分は存在

あるべき未来像／身分を解消して、属性による個性を尊重しあう世界／共生社会

→身分を属性に転化させるには、どうすればよいか？

3. 共同体と個

現代、個人の論理が登場してきた一方で、共同体の論理が解消したのではない

*たとえば近世日本では、村(共同体)はセーフティネット／村民を束縛する一方、生存を保障する

→共同体と個の適切な関係は、どのようなものか？

おわりに

本日の講義記録は、講義全体をふりかえりつつ、本日の議論で言い足りなかったことや感想などを書いてほしい

【参考文献】

大橋幸泰『近世日本邪正論 江戸時代の秩序維持とキリシタン・隠れ／隠し念仏』(勉誠社、2024 年)

【付記】

・明日までに、Waseda Moodle にて講義記録の提出を求める。

・小レポート提出期限 2026 年 1 月 15 日／小レポートを提出した者が試験(1 月 23 日)の受験資格を有する。